



岩見の一本松

開拓の歴史とともに育ち、
樹齢八〇〇年を超えるイチイの木

苫前町古丹別市街から国道239号を東に約2km進んだ橋の手前を右に入ると、牧草地の中に見事な枝ぶりの松の木が立っています。地元の人たちが愛着をもって「岩見の一本松」と呼ぶこの木は、苫前町岩見地区に立つイチイの木で、樹齢800年以上、高さは12m。枝が伸びている範囲は直径約10mに及び、幹の太さは約320cmという圧倒的な存在感を見せています。

このイチイの木は、明治29年(1896年)に開拓者が入植したときから確認されており、昭和20年代にはすでに現在の大きさにまで成長していたそうです。800年という樹齢から推定すると、鎌倉時代から存在している木であることが想像できます。

岩見の一本松は昭和49年(1974年)3月、北海道自然環境等保全条例に基づき、記念保護樹木に指定され、さらに昭和55年(1980年)9月には苫前町の記念物にも指定されました。北海道の記念保護樹木は「由緒・由来のある樹木又は住民に親しまれている樹木のうち、郷土の記念樹木として保護することが必要なもの」という条文のもと、将来にわたって保護されるもので、留萌管内では唯一、岩見の一本松が指定されています。

苫前町岩見地区は明治29年(1896年)に奈良県や伊勢地方、北陸各県から入植した先人たちによって開墾の鍬が入れられ、平成7年(1995年)に開拓100年記念式典が行われました。地域の人たちは、岩見の一本松に「先人の艱難辛苦(かんなんしんく)の歳月を見つめ、長く後生を守ってもらいたい」という願いを託し、心のより所になっているのです。

見どころ

広大な牧草地にポツンとそびえ立つ岩見の一本松は、どこから見ても圧倒的な存在感を醸し出しています。離れて全体の姿を写真に収めたり、近づいて枝ぶりを眺めると、「優しい気持ちになる」という人も多いようです。(私有地につき、立入には所有者の許可が必要となります。)

ポイント

イチイはイチイ科イチイ属の常緑針葉樹で、北海道や北東北ではオンコの木という方言で親しまれています。北海道内では樹齢1,000年を超える名木も少なくありませんが、岩見の一本松は横に広がる枝ぶりが特徴で、見る人たちをとりこにするようです。

五感で感じる！ 風土資産の魅力



岩見地区は平成7年に開拓百年記念式典を挙げています。明治29年に奈良県や伊勢地方、北陸各県から開拓の志を抱いて入植した先人たちによって、肥沃な農業地帯に発展しました。その開拓の歴史を静かに見守ってきたのがこの岩見の一本松なのです。

■ 基本情報 (R3. 5)

文化財指定：記念保護樹木・町指定記念物
指定年月日：昭和49年3月30日(記念保護樹木)
昭和55年9月18日(町指定記念物)
住 所：苫前郡苫前町岩見